



Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会ニュース

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-30-6

TEL 03-3891-6161 FAX 03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 広報委員会 平成18年6月1日 18号

第5回通常総会開催

18年度事業計画決定

日本筆記具工業会は5月16日午後5時から、上野公園の精養軒で第5回通常総会を開催し、平成17年度事業報告と収支決算、並びに18年度事業計画と収支予算を原案通り承認しました。引き続き開催した懇親会には、多数の来賓の出席を得て、情報交換と懇親を深めました。

日中二国間協議を実現 問題解決に糸口

小川洋平会長スピーチより

本日は、会員各位の多数の出席と、経済産業省日用品室様および標準化推進室様のご担当官の皆様、そして財団法人日本文化用品安全試験所の皆様のご臨席をいただきましてありがとうございます。

さて、まず2005年の我が国の筆記具等の統計についてご報告申し上げますが、残念ながら2005年は数量で前年比マイナス7.3%、金額で111億円減という結果になりました。国内景気は回復基調にあると言われ始めましたが、中国の廉価品と模倣品の影響で我々のビジネスは打撃を受けている状況が続いています。

その厳しい衆目を集めている中国の筆記具製造業者団体である制筆協会の代表者に、4月、サンフランシスコで面会してきました。これは米国筆記具工業会(WIMA)が主催した「2006国際フォーラム」という新しい国際会議で、WIMAを中心に日本筆記具工業会(JWIMA)、欧州筆記具工業会(EWIMA)、中国制筆協会(CWIA)、インド筆記具工業会(WIMO)の5つの地域の製造団体が集結することになっていたのですが、EWIMAが欠席したので4団体で実施されました。テーマは、経済のグローバル化に伴って問題が表面化してきた「製品の安全性と模倣品問題」についてでした。我が国もこの問題で大きなダメージを被っていますので、知財のメンバーを中心に総勢8名というスケールで勇んで出かけていったのです。しかし、国際

フォーラムは規定のプログラムに沿って進行し、ディスカッションの時間が与えられていなかったのです。そこで、我々は模倣品問題を焦点に日中会談を強く申し入れまして、これを実現させることができました。

日中二国間で、我々は知的財産権の侵害に関する多くの資料をもって被害の状況を説明しました。中国側は、WTO加盟以降、IP(知的所有権)問題を重視しはじめているが、その認識に中央と地方の格差があるのが現状で、協会が掌握できる範囲も限られている。貧困地域では模倣品を作らないと食べることもできない者もいる - - といった論法で対抗、これは一筋縄では行かない相手という印象を深めました。しかし、日本側は二国間で定期的なIP問題に関する実務者協議を提案し、また中国側も、違反メーカーの具体的な名前をぜひ教えて欲しいと表明、この問題の解決に向けた糸口つかむことができたことは成果でした。多国間にまたがるIP問題につきましては、ご臨席の経済産業省の皆様、また特許庁の皆様のご支援を引き続き頂戴したく存じますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

ところで先日、コンサルティング会社マッキンゼーのドイツ支社長のユールゲン・クルーゲ氏と話をする機会がありました。彼は、ドイツも日本も高賃金と高物価で自国でモノを生産できない国になりつつある。なんらかの革新的アクションをおこなないと我々は中国に負けてしまうだろう。しかもチャンスは今しかない、と語気を強くしたので。模倣問題で粘り強く協議を進める一方で、我々製造業の置かれている立場の変化をよく考え、自らをイノベーションする努力が必要かと存じます。ここにお集まりの皆さん、戦略と実力で中国に大きく差をつけようではありませんか。皆さんの奮起を期待しています。

(了)



委員会・部会 開催状況 (2006.1.1～5.31)

< 総務 関係 >

4.11 総務委員会

- ・ H18 年度第 1 回理事会ならびに第 5 回通常総会
上程案について

< 調査研究・広報 関係 >

2.1 調査研究・広報委員会

- ・ 「お役立ち情報 / マーキングペン編」の内容検討
など

3.10 調査研究・広報委員会

- ・ 工業会ニュースリニューアルについて
- ・ H18 年度活動計画の検討など

< 流通 関係 >

2.24 お客様相談窓口連絡会

- ・ お客様相談対応情報交換
- ・ H18 年度活動計画の検討など

3.15 流通小委員会

- ・ H18 年度活動計画の検討 など

< 技術国際 関係 >

2.23 マーキングペン部会

- ・ JIS S 6037 改正 工業標準調査会審議結果の
対応について
- ・ ホワイトボード用マーカーの業界基準について
- ・ H18 年度活動計画の検討など

3.17 技術国際委員会

- ・ 各部会 H17 年度下期活動報告および H18 年
度活動計画について
- ・ 国際規格適正化事業に関する報告など

3.27 製品安全小委員会

- ・ 当小委員会設置の目的と基本的な考え方
- ・ 米国 CPSC と EN71-3 の試験方法の比較
- ・ IT 業界グリーン調達基準について
- ・ 業界金属部品材料の確認 など

4.12 製品安全小委員会

- ・ 各社確認結果の報告と閾値の検討
- ・ 工業会の統一見解について など

4.20 マーキングペン部会

- ・ ホワイトボード用マーカー業界基準について
- ・ JIS S 6060 (キャップの安全要件) の内容確
認など

4.27 製品安全小委員会

- ・ 各社確認結果の報告と閾値の検討
- ・ 工業会の統一見解について
- ・ 「特定化学物質含有情報シート」(JWIMA 推奨
様式) について など

< J I S 改正 関係 >

2.21 鉛筆・シャープしん JIS 改正原案作成合同分 科会

- ・ JIS S 6005、JIS S 6006 改正原案に関する
内容検討
- ・ 新濃度試験用紙入荷の報告、など

3.28 鉛筆・シャープしん JIS 改正原案作成合同分 科会

- ・ JIS S 6005、JIS S 6006 改正原案に関する
内容検討

4.26 鉛筆・シャープしん JIS 改正原案作成委員会

- ・ JIS S 6005、JIS S 6006 改正原案の説明お
よびそれらに関する審議

< 国際規格適正化事業 関係 >

1.12 国際規格適正化事業委員会

- ・ EWIMA 技術委員会 (05.9.28) 報告
- ・ ゲルインキボールペン ISO 規格案の検討

< 全文協との共催 関係 >

2.3 知的財産権 3 団体交流会

- ・ 講演会「中国税関における知的財産保護」
講師：北京高朋天達律師事務所 張 青華

4.28 合同知的財産部会

- ・ ISOT2006 模倣侵害品対策事業について

5.23 合同知的財産部会

- ・ ISOT2006 模倣品対策活動について
- ・ W I M A 年次総会報告について
- ・ 3 業種団体 (時計・玩具・文具) 交流会につい
て
- ・ 中国国際貿易促進委員会との意見交換会 など



初の日米中印 4カ国会議に出席 知財の重要性主張

本工業会は4月初旬、サンフランシスコで開催された米国筆記具工業会年次総会「2006 国際フォーラム」に出席しました。この会議は米国筆記具工業会の呼びかけで、日本、欧州、中国、インドの筆記具工業会を招集して意見交換する計画でしたが、欧州が欠席の意思を示したことから4極で実施されました。この形式では初の国際会議です。会議の目的は、製品の安全性と模倣品問題に関する日米欧マーケットにおける被害の実態を明らかにし、その主要生産国である中国およびインドに知的財産権の尊重等を働きかけるものでした。本工業会は会議終了の後、時間を延長して「模倣品問題」に限った日中非公式会談=写真=の開催を要求。その結果、日本筆記具工業会（小川会長、出席者全員）と中国制筆協会（高理事他）による約1時間半の日中二国間会談が実現しました。

会議で日本側は、二国間でIP(知的所有権)に関する定期的な実務レベル協議の開催を提案。中国側は中国はWTO加盟以降、IP問題を重視し始めている。違反メーカーの具体的な名前をぜひ教えて欲しい。今後、IPの取り締りを強化すると応じました。

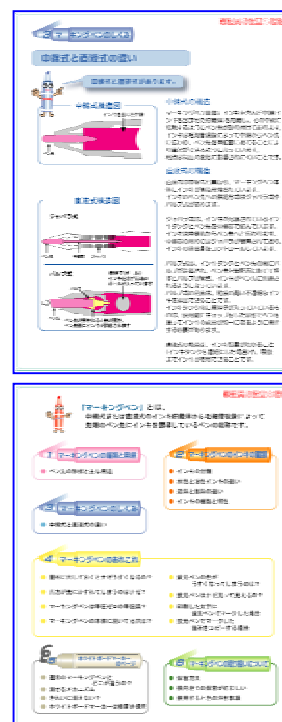


< 2006 国際フォーラムに出席した JWIMA メンバー > 小川 JWIMA 会長、サクラクレパス・西村社長、ぺんてる・笹川、三菱鉛筆・大森（知財）、ゼブラ・秋山（知財）、パイロット・増田（知財）、トンボ鉛筆・伊藤、トンボ鉛筆・宮平、以上8名（順不同、敬称略）

お役立ち情報 マーキングペン編掲載

平成17年3月にHP上に掲載した「ボールペン編」に引き続き、ことし3月、新たに「マーキングペン編」を“筆記具お役立ち情報”に追加しました。内容は、種々あるマーキングペンについて、インキの種類や構造などの違いを紹介し、どのタイプがこういった用途に適しているかなどわかるようにまとめています。また、一般の方がマーキングペンに関して不思議に思っていること、例えば「ツイン式で片方が先にかすれてしまうのはなぜなのか?」、「本体に空いている穴は何なのか?」、「ホワイトボードマーカーは、通常のマーキングペンとどこが違うのか? どうして消せるのか?」などについて、メーカー団体として丁寧に解説しています。是非一度HPを開いていただき、お客様の問合わせ応答などにご利用下さい。お役立ち情報のURLは次の通りです

http://www.jwima.org/oyakudati_index.html



予備投票はじまる ゲルインキボールペンISO提案

ゲルインキボールペンは我が国が世界に先駆けて開発・製品化したもので、技術面でも世界をリードしています。国内ではゲルインキの特性を数値化して規定したJISが平成17年1月に制定されましたが、これに対応する国際規格がないのが現状です。そこで、日本が主導してJISをベースにしてISO規格制定の国際提案を行っています。

ゲルインキボールペンJIS (JIS S 6061) の原案作成団体である本工業会 (JWIMA) が窓口になり、平成16年より欧州筆記具工業会 (EWIMA) に働きかけを行い、ISO規格の Working Draft (作業原案) を作成。米国筆記具工業会 (WIMA) にも説明・協力を要請し、ほぼ賛同を得た段階の平成18年2月、ISO/TC10 (第10技術委員会) 事務局へDIS (照会原案) 登録承認を受けるため Working draft を添えて Fast-track Procedure (迅速法) による New Work Item Proposal (エントリーシート) を提出しています。

現在、予備投票が進行中で6月末に投票が終了しますが、その結果で持って本格的な規格審議に入ることになります。

本年は、DIS投票に向けて各国の正委員やオブザーバーに対する接触や意見提出国との調整が活動の中心になると考えられ、TC10総会をはじめ諸外国筆記具工業団体へのプレゼンテーションを予定しています。

(下写真：TC10総会)



金属部品について 製品安全小委員会を新設置

東京都の試験の結果、「子供用の金属製アクセサリに鉛が大量に含有していた」との報道があり、その後「筆記具についてはどうか？」との問い合わせがそれぞれ各社にも寄せられました。

この件に関しては、的確に答えないと誤解を生じるおそれがあるため、「工業会で統一した見解 (回答) をまとめた方が良い」との会員からの意見があり、技術国際委員会の部会として「製品安全小委員会」が設置されました。



(高濃度の鉛が検出された金属アクセサリ)

一般に切削加工に用いられる金属材料には、問題になった金属アクセサリ類ほど高濃度ではありませんが、加工精度を向上させるため少量の鉛が含有されており、筆記具でもそれらの金属材料が使用されています。

もともと筆記具では、舐めたりする可能性のある「塗装」や「インキ・しん」などについてはEN71-3 (玩具の安全性) の基準で安全規定を設けていましたが、筆記具の構造材や機能材として使用されている金属材料は汎用のものであり、特に安全性の面から

規定されていませんでした。ただ、これらの部品は筆記具の本体内に内蔵していたり固定されているため、直接子供が誤飲することはきわめて低いと思われませんが、工業会としては安全面を考慮し、他の産業でも用いられている基準を参考にし、それ以下で対応するよう会員に呼びかけるようにしました。

そして、製品安全小委員会ではそれぞれ委員各社がデータを持ち寄って協議し、JWIMA ホームページ (会員専用ページ) にあるような、「筆記具に含有する鉛について」の見解を、工業会としてまとめました。

平成18年度 事業計画

平成18年4月1日～平成19年3月31日

平成18年度においては日本筆記具工業会 定款第4条(事業)に基づき以下の事業を実施する。

1. 筆記具とその関連製品の生産統計と貿易統計の調査及び研究
2. 記具とその関連製品の内外規格の調査研究
3. 記具とその関連製品の内外知的財産権の調査研究
4. 筆記具とその関連製品の安全及び環境問題に関する調査研究
5. 筆記具とその関連製品の外国関連団体との交流と情報の交換
6. 関係機関及び関係団体との連絡折衝と協調
7. その他必要な事業

前各号の事業を企画推進するために設置された各委員会の平成18年度の活動計画

(1) 総務委員会

1. 本工業会の組織活動の基盤である会員の入会促進を図る。
2. 組織の運営とその年間計画の立案を行う。
 - ・ 通常総会 5月開催
 - ・ 会員懇親会 12月開催
 - ・ 理事会 原則として4月、5月(通常総会時)、10月、12月の4回
 - ・ 委員会 原則として3月、9月(但し、必要に応じて、委員長が召集し開催することもある)
3. 会員の相互交流を深める機会としての懇親会(通常総会時、年末講演会時、その他)、優良工場見学会、会員研修会、講習・講演会等の企画・運営を行う。
4. 行政官庁との緊密な連絡と折衝を行う。
 - ・ 会員へのオフィシャル情報提供
5. 会員の福利厚生に資する業務を行う。(慶弔含む)
6. 予算の立案・執行と決算に関する業務の管理をする。

(2) 流通委員会

1. 適正な販売と流通秩序に関する調査研究を行う。
 - ・ 価格問題、カタログ等への協賛金問題の調査研究
 - ・ その他の流通に関する問題等については、必要に応じて対応する。

2. お客様相談窓口連絡会

- ・ お客様相談窓口担当者による情報交換会を定期的に行う。
- ・ お客様対応事例集を各社の事例・他業界の情報なども参考に作成する。
- ・ お客様への商品知識啓蒙を行う。(HP等により正確な商品情報の提供を行う。)

(3) 調査研究・広報委員会

1. 国内の筆記具統計資料の収集と会員への情報提供をする。(生活用品統計、貿易統計等)対アメリカ、対中国の輸出・輸入データを会員専用ページに掲載し、情報提供する。(月次、年次データ)
2. 海外の筆記具統計資料を会員への情報提供をする。(WIMA,EWIMA等の統計資料等)
3. 本工業会独自の調査資料を会員へ情報提供をする。
 - ・ 海外の筆記具市場に関する調査(中国貿易統計)
4. 会員相互の情報発信手段として「インターネット」の活用充実を図る。
 - ・ 筆記具お役立ち情報「シャープペンシル編」の作成およびHPへの掲載
 - ・ HPを流通やユーザーにPRし、本工業会の認知度アップを図る
5. 工業会ニュースの活用度を高める。
 - ・ 工業会ニュースのリニューアル(読者アンケート、名称募集など)
 - ・ Eメール配信による配布効率の向上
 - ・ タイムリーな発行 ; 年3回(1/1, 6/1, 11/1) +
6. 会員・委員会・部会名簿を年1回総会時に配布する。

(4) 技術・国際委員会

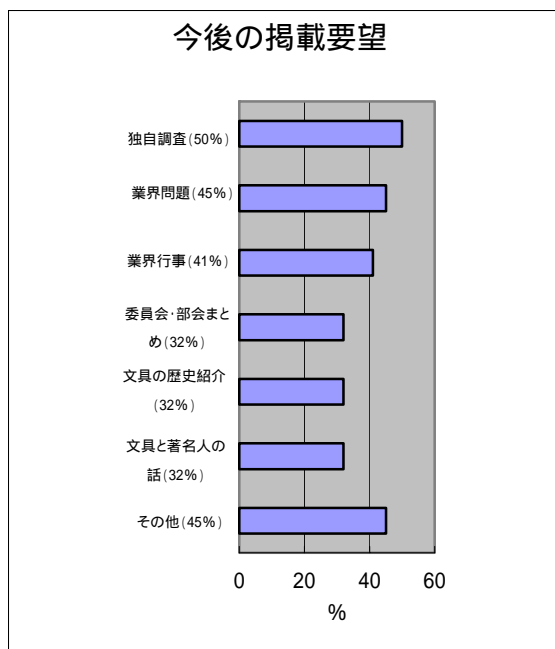
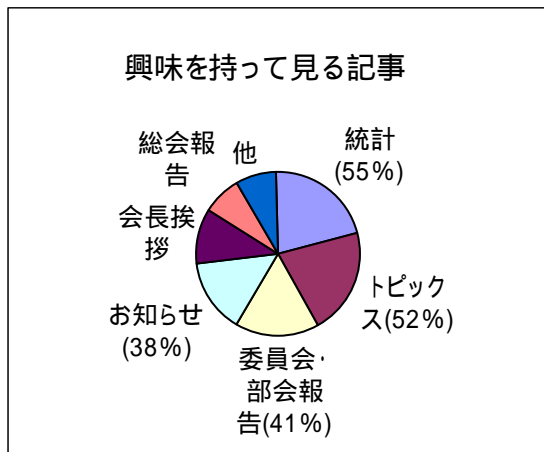
1. 工業標準化に関する活動を行う。
 - 工業標準化に関する情報収集と提供
 - ・ 新JISを含めた認証制度勉強会等の実施
 - JIS原案改正作業(下記の改正原案を作成する。)
 - ・ JIS S 6005 シャープペンシル用しん(H17年度より継続)

- ・ JIS S 6006 鉛筆、色鉛筆及びそれらに用いるしん (H17 年度より継続)
 - ・ JIS S 6025:02 万年筆及びそのペン先 (追補)
 - ・ JIS S 6055:02 事務用修正液 (追補)
- JIS 原案改正の 12 条申請の検討
- ・ JIS S 6013:02 シャープペンシル
 - ・ JIS S 6060:96 14 歳までの子供用の筆記・マーキング用具のキャップ 安全要件
- JIS 規格の課題の検討
- ・ JIS S 6037:06 マーキングペン(色名表示、安全キャップ、直液式マーキングペン規格化)
- ホワイトボードマーカの業界基準の作成
JNLA (工業標準化法に基づく試験事業者認定制度) 生活用品分野 (文房具) 技術分科会の筆記具に関する事項
- 2 . 国際規格等 (ISO・EN・BS・DIN・NF・ASTM・SABS) に関する活動を行う。
- ・ 国際規格に関する情報収集と提供 (BS 7272-1 & 7272-2、Michler's Keton 等)
 - ・ ISO/TC10/SC9 に係る規格作成及び改正に関する審議及び提案 (ゲルインキボールペンの新規提案: Fast-track Procedure による New Work Item Proposal)
 - ・ ISO/TC10 国内対策委員会への参画
 - ・ 新規分野・産業競争力強化型国際標準提案 / 合同委員会への参画
- 3 . PL (製造物責任) 法に関する調査研究
- ・ クレーム分析と技術的対応
 - ・ 表示 (使用上の注意等) の問題
- 4 . 安全性・環境への配慮に関する調査研究
- ・ 国内の法令に関する情報収集と提供
 - ・ 国内の環境マークに関する調査研究 (エコマーク関連等)
 - ・ 海外の安全・有害物規制に関する情報の収集・提供と日本からの発信
(BS 7272-1 & BS 7272-2、EN71-9、EN71-10、EN71-11: "Organic Chemical Compounds in Toys", Legislation concerning Michler's Ketone, Arnold's Base and primary aromatic amines in ball point pen ink 等)
- 5 . 技術及び品質の向上に関する活動を行う。
- ・ 会員の技術向上に関する研修会の実施
 - ・ 品質向上に関する調査研究 (試験方法、評価方法及び試験機器、測定機器の統一等)
鉛筆濃度試験紙の調査研究、新レコード式画線きによる濃度試験の調査研究、水性ボールペン用筆記試験紙に関する調査研究 (中性紙化への対応)、筆記試験機の標準化に関する調査研究 など
- 6 . 知的財産権に関する調査研究をする。
- ・ 海外の模倣品対策に関する活動を行う。
主に、中国模倣品問題に関する調査及び対応
例えば、(社)全日本文具協会主導、日本筆記具工業会協力の形での、ISOT 2006 における模倣品防止対策諸活動 (セミナーの開催、真正品・模倣品比較展示コーナーの設置、弁理士による相談コーナーの設置、実態調査等)
- 中国筆記具メーカーのカタログ等の情報収集
国際知的財産保護フォーラムの模倣対策プロジェクト参加 (WG1 ~ WG5)
- ・ その他の模倣関連活動
WIMA 主催の筆記具工業団体国際会議 (米・日・中・印) への出席
 - ・ 著作権を含む知的財産権に関する会員への啓蒙と情報提供
- 7 . 海外筆記具工業会との国際交流
- ・ アメリカの WIMA、ヨーロッパの EWIMA / EPMA / ISZ 等の欧米の筆記具協会と統計資料やその他の情報交換をし、日、米、欧の緊密な連絡と協調を図る。
ISOT 2006 における、EWIMA、WIMA、JWIMA / AJSA の 3 極非公式会議 (全文協との共催)、EWIMA Technical Subcommittee への出席等)
 - ・ 中国・東南アジア諸国筆記具協会 (メーカー) との国際交流についての調査研究と情報収集
- 8 . 各部会に関する活動
- 9 . その他 (財) 日本文化用品安全試験所に関する事項
- 略称などの用語については JWIMA ホームページの事業計画末尾をご覧ください。この頁の URL は次の通りです
- <http://www.jwima.org/jigyo.html>



工業会ニュースアンケート実施

工業会ニュースに会員の皆様の声を反映しようとアンケートを実施しました。ご協力いただいた会員企業の皆様には御礼申し上げます。
 工業会ニュースを「読んだことがある」方は約半数の52%でした。内、興味がある項目のランクは、統計(55%) トピックス(52%) 委員会・部会報告(41%)でした。今後の「掲載記事の要望」は、独自調査結果報告(50%) 業界問題についての見解(47%) 委員会・部会事象のまとめ(41%)でした。
 アンケートでは同時に、新たな工業会ニュースのネーミングも募集しました。今後、調査研究・広報委員会と協議して次号19号(11月1日発行号)から皆さんのご意見を反映していきたいと考えています。題字デザインも変わりますのでご期待下さい。(アンケート回収率:57%/アンケート方法:各委員会・部会のメンバー宛てアンケート用紙をメール配信し、担当部署に転送いただく留め置き方式を採用しました。ご協力に感謝申し上げます)



工業会ニュースのバックナンバーがご覧になれます。
 URL: http://www.jwima.org/jwima_news/jwima_news.html

お知らせ

ISOT2006 模倣品対策セミナー

7月6日～8日に開催される「ISOT2006」で、知的財産部会のメンバーが模倣品対策活動の一環として「模倣品対策セミナー/パネルディスカッション」を実施しますので、ご興味ある方はぜひご出席下さい。

日時 平成18年7月7日(金)14:00～16:30

会場 東京ビッグサイト 東3展示ホール

「主催事務局室 特設セミナー室」

参加料 無料(定員80名・申し込み先着順)

主催 (社)全日本文具協会・日本筆記具工業会

テーマ: 「世界に広がる模倣問題/効果的・効率的対応」

お申込み: (社)全日本文具協会「模倣品対策セミナー事務局」 TEL.03-5687-0961 / FAX.03-5687-0340

JWIMA推奨「特定化学物質含有情報シート」完成

技術国際委員会の部会員協力で RoSH 指令関連の「特定化学物質含有情報」の簡便型報告シート(日本筆記具工業会推奨様式)が完成しましたのでご利用下さい。(書式ならびに作成趣旨、記入上の留意点、対象科学物質例については、工業会HP/会員専用ページに掲載)

活用の仕方については、「作成趣旨、記入上の留意点」を読んでいただき、正しく有効利用していただくようお願いいたします。

改正 JIS 発行のお知らせ

昨年、JIS / ISO部会で改正原案作成終了したJIS規格が、本年3月25日に正式発行されましたのでお知らせします。(現在は、既に2006年版が規格発効しています。)

JIS S 6037:2006 (マーキングペン)

JIS S 6039:2006 (油性ボールペン及びレフィル)

JIS S 6054:2006 (水性ボールペン及びレフィル)

購入の際、工業会を通していただくと10%値引きになりますのでご利用ください。

今後の行事予定

現在、総務委員会では今年の秋冬にかけての工業会行事を企画検討しています。まだ、具体的に案内できる段階まで煮詰まっていますが、おおよそ次のような日程で開催する予定です。(企画が具体化したものからHPに掲載してまいります)ご期待ください。

9月16日 第3回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンパ

10月3日 会員研修会

10月19日 優良工場見学会

12月6日 年末講演会・懇親会

2005年の出荷・輸入・輸出 =年間=

繊維・生活用品統計(国内向け販売と輸出向け販売を含む)

(金額はすべて百万円)

出荷	単位	2005年年間		2004年年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	441,989	26,222	463,255	29,789	-4.6%	-12.0%
ボールペン(水性)	千本	776,583	32,774	818,505	34,961	-5.1%	-6.3%
マーキングペン	千本	743,261	36,915	743,140	39,039	0.0%	-5.4%
シャープペンシル	千本	203,368	15,405	250,265	17,829	-18.7%	-13.6%
鉛筆	gross	2,745,757	8,335	2,712,554	8,261	1.2%	0.9%
シャープしん	千本	3,086,848	5,409	3,448,841	6,014	-10.5%	-10.1%
修正液	千本	47,110	4,141	50,317	4,527	-6.4%	-8.5%
修正テープ	千個	90,607	7,450	86,792	7,707	4.4%	-3.3%
クレヨン・パス	千本	100,998	1,602	113,818	1,664	-11.3%	-3.7%
水彩絵の具	千本	59,502	2,634	60,611	2,629	-1.8%	0.2%
合計金額			140,887		152,420		-7.6%

日本貿易統計

輸出	単位	2005年年間		2004年年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	231,407	8,077	242,505	8,676	-4.6%	-6.9%
ボールペン(水性)	千本	634,051	27,657	679,362	28,677	-6.7%	-3.6%
マーキングペン	千本	303,088	12,424	314,303	13,231	-3.6%	-6.1%
シャープペンシル	千本	134,317	6,589	165,232	7,645	-18.7%	-13.8%
万年筆	千本	4,760	844	6,498	820	-26.7%	2.9%
以上のセット品	千本	801	140	548	102	46.2%	37.3%
黒しん鉛筆	gross	93,845	201	135,990	282	-31.0%	-28.7%
色しん鉛筆	gross	21,337	70	32,790	97	-34.9%	-27.8%
ボールペン用中芯	千本	195,750	2,912	226,104	3,006	-13.4%	-3.1%
マーキングペン用ペン先・ニブポイント	千本	4,126,515	7,509	3,913,355	6,814	5.4%	10.2%
シャープ部品・付属品	Kg	238,281	947	181,708	947	31.1%	0.0%
万年筆・ボールペンの部分品	Kg	1,503,430	4,086	1,677,354	4,381	-10.4%	-6.7%
シャープしん(鉛筆しん含む)	Kg	710,434	2,137	467,840	2,478	51.9%	-13.7%
クレヨン・パス	Kg	165,129	387	164,807	391	0.2%	-1.0%
合計金額			73,980		77,547		-4.6%

日本貿易統計

輸入	単位	2005年年間		2004年年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	234,692	7,362	236,426	6,627	-0.7%	11.1%
マーキングペン	千本	202,311	3,161	186,587	2,934	8.4%	7.7%
シャープペンシル	千本	41,371	1,188	38,970	1,050	6.2%	13.1%
万年筆	千本	808	1,452	596	1,146	35.6%	26.7%
セット品	千本	2,204	177	4,259	149	-48.3%	18.8%
黒しん鉛筆	Kg	660,662	537	564,264	407	17.1%	31.8%
色しん鉛筆	Kg	1,030,394	789	1,290,707	937	-20.2%	-15.8%
ボールペン用中しん	千本	26,055	247	37,522	269	-30.6%	-8.2%
ペン先及びニブポイント	千本	93,973	293	154,184	429	-39.1%	-31.7%
ボールペン・シャープ部品・付属品	Kg	1,004,414	2,206	862,532	1,859	16.4%	18.7%
ペン軸、その他の部分品	Kg	168,011	268	187,945	279	-10.6%	-3.9%
しん	Kg	345,942	336	350,830	387	-1.4%	-13.2%
パステル・チョーク	Kg	1,449,481	643	1,259,580	622	15.1%	3.4%
合計金額			18,659		17,095		9.1%

2006年度のタイムリーなデータをご覧になることができます。URL: <http://www.jwima.org/toukei/tokei-18.xls>